



建築用シート防水材料のメーカー団体

KRK (合成高分子ルーフィング工業会) <https://www.krkroof.net/>

〒103-0005 東京都中央区日本橋久松町9-2 日新中央ビル3F

TEL.03-6206-2928 FAX.03-6661-9034 E-mail:krkroof@krkroof.net

K R K 会 員

アーキヤマデ株式会社	〒564-0053 大阪府吹田市江の木町24-10 TEL.06-6385-1265 http://www.a-yamade.co.jp/
三晃金属工業株式会社	〒108-0023 東京都港区芝浦4-13-23 MS芝浦ビル TEL.03-5446-5606 http://www.sankometal.co.jp/
シバタ工業株式会社	〒674-0082 兵庫県明石市魚住町中尾1058 TEL.078-946-1515 https://www.sbt.co.jp/
住ベシート防水株式会社	〒140-0002 東京都品川区東品川2-5-8 天王洲パークサイドビル TEL.03-5462-8960 http://www.sunloid-dn.jp/
田島ルーフィング株式会社	〒101-8579 東京都千代田区外神田4-14-1 秋葉原UDX21階 TEL.03-6837-8888 https://www.tajima.jp/
ニッタ化工品株式会社	〒530-0003 大阪市浪速区桜川4-4-26 TEL.06-6563-1206 https://www.nitta-roofing.com/
パーカーアサヒ株式会社	〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町2-22-1 パーカーコーポビル1階 TEL.03-5614-9395 http://www.asahi-gomu.co.jp/
ハセガワシート株式会社	〒276-0022 千葉県八千代市上高野1384-5 TEL.047-411-5014 https://www.sanAsheet.com
早川ゴム株式会社	〒721-8540 広島県福山市箕島町南丘5351 TEL.084-954-7801 https://www.santac.or.jp/
三ツ星ベルト株式会社	〒653-0024 兵庫県神戸市長田区浜添通4-1-21 TEL.078-685-5771 https://www.mitsuboshi.co.jp/
ロンシール工業株式会社	〒130-8570 東京都墨田区緑4-15-3 TEL.03-5600-1866 https://www.lonseal.co.jp/

賛 助 会 員

アキレス株式会社	03-5338-9544	日本ヒルティ株式会社	045-943-6211
亜細亜工業株式会社	03-3895-4041	フィッシャージャパン株式会社	03-3263-4491
株式会社カネカ	03-5574-8070	古河電気工業株式会社	03-3286-3894
株式会社JSP	03-6212-6362	株式会社ベルテック	06-6651-9194
株式会社シュナイダー・ジャパン	03-3537-3355	峰岸株式会社	03-3274-1726
ソトウ株式会社	045-322-0720	明和産業株式会社	03-3240-9354
タキロンマテックス株式会社	03-5781-8150	株式会社山装	045-781-7821
日本パワーファスニング株式会社	06-6442-0059		

KRK 2018

シート防水材料に関する情報誌 vol.13

合成高分子ルーフィング工業会
<https://www.krkroof.net/>



- | | |
|--------------|-------------------|
| 1 ごあいさつ | 4 公共建築(改修)工事標準仕様書 |
| 1 KRKの概要 | 5 シート防水施工事例 |
| 2 KRKの活動 | 8 トピックス |
| 3 シート防水の特長 | GHS制定の背景 |
| 3 シート防水材料の紹介 | 11 KRK会員名簿 |
| 4 シート防水工法の紹介 | |

KRK

ごあいさつ

合成高分子ルーフィング工業会会長

藤本 庄三

今年は、「働き方改革」関連法が成立し5年間の猶予期間を経て施行されますが、防水業界へも大きな影響が出てくると思われます。現場作業員の休日を確保すべく工事日数は削減されますが、工期が延長されるわけではなく、現場作業の効率化により工事日数を短縮し、休日を拡大させることになります。

しかしながら以前から問題となっている現場労働者の高年齢化及び高齢者の大量離職が迫られる中、品質を低下させないで工期削減が図れる工夫も考えていく必要があります。当工業会でも現場作業員の助けができればと考えています。

KRKの概要

KRKの歴史と実績

KRKはシート防水の品質向上と施工技術の標準化に積極的に取り組んでいます。

歴 史

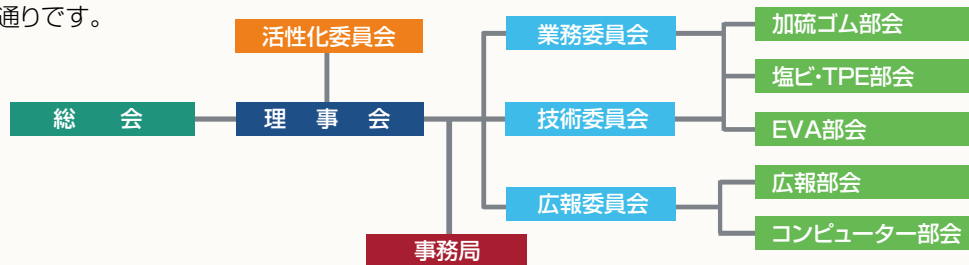
KRKは1970年にシート防水材料のJIS規格制定を契機に設立された「合成高分子ルーフィング懇話会」を母体として1978年現在の工業会組織に改組し、49年の歴史を歩んでまいりました。JIS規格の改定、公共建築工事標準仕様書の改定、日本建築学会の研究活動参画など幅広く活動してまいりました。

実 績

KRKは製品や工法の革新にむけ、常に意欲的に取り組んで来ました。建築業界を取り巻く激しい環境の変動にも柔軟に対応し、新築工事だけでなく改修需要への対応や新しい仕様の開発、施工技術の平準化等に取り組んでいます。

KRKの構成

KRKは防水シートの優良メーカーで構成されており、組織は以下の通りです。

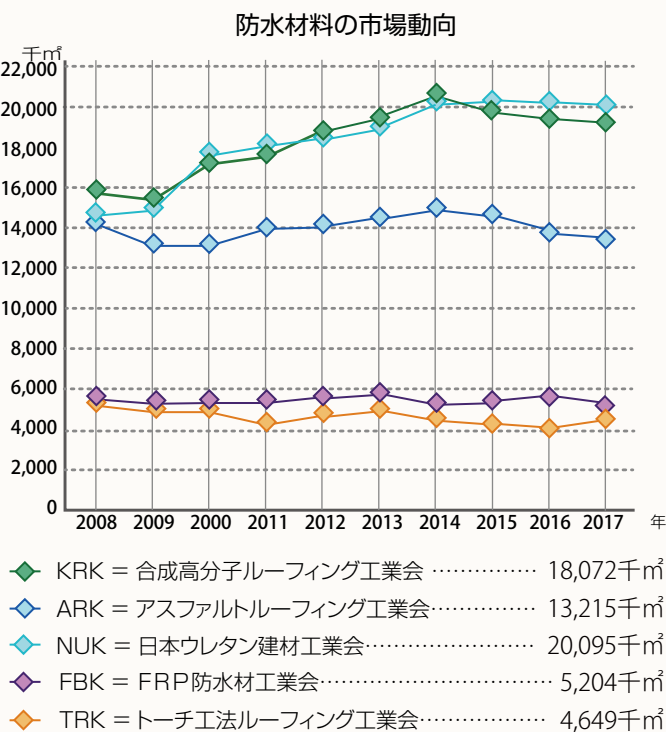


最近では大阪北部地震により4万6千棟以上の建物が被害にあいました。報道では木造住宅の被害が多く見受けられます。

昨年の広報誌では木造住宅の防水を取り上げておりました。シート防水は「軽量の屋根」「下地の挙動に追従する防水層」などの特長があります。ベストな防水は当工業会の仕様で対応できるものと考えております。

更に、広報活動を行い当工業会の仕様を広く普及していきたいと考えております。

今後とも皆様のご理解とご協力の程宜しく願い申し上げます。



出典：2017年度 JWMA 統計

KRKの活動

KRKは関係各方面のご支援を賜り、活発な活動を展開しています。

官公庁への協力

- 公共建築工事標準仕様書及び公共建築改修工事標準仕様書改定への協力

日本建築学会における活動

KRKは日本建築学会活動にも積極的に取り組んでいます。

- JASS8改定作業への協力
- 2017年日本建築学会WG活動
 - ・ 防水材料の長期耐久性評価試験方法小委員会
 - ・ 地下外壁外防水仕様評価小委員会
 - ・ 豪雨多発時代の屋根排水WG
 - ・ 防水改修WG
 - ・ 安心居住総プロ
- 2017年度日本建築学会大会(広島、広島工業大学)への参加

JWMAへの対応

日本防水材料協会(JWMA)の様々な活動に参画しています。

- 海外文献発表会
- JWMA環境WG
- 中韓日防水シンポジウムへの参加
- 屋上防水の調査診断へのドローン活用検討WG
- 飛び火認定告示化検討WG

KRKの出版物

KRKはシート防水の品質向上のため、施工マニュアルやパンフレット、技術資料、仕様書、規格書など様々な発刊物を作成しています。

- KRK シート防水マニュアル(平成29年改訂)
- シート防水Q&A
- シート防水金属地下断熱機械的固定工法
- 高反射率防水シートKRK 規格
- 加硫ゴムシート防水(平成30年改訂)
- 加硫ゴム系シート防水マニュアル(平成28年改訂)
- 加硫ゴム系シート防水高断熱接着工法
- 塩ビ・TPE シート防水(平成30年改訂)
- EVA 系シート防水
- KRK広報誌(2006—2017)

KRK会員向け研修会

- 2017年度研修会(於:仙台、東京、名古屋、大阪、福岡)
テーマ：シート防水におけるリスクアセスメントについて/KRK広報誌2017の紹介/賛助会員様の製品紹介(カネカケンテック㈱、ソトウ㈱、峰岸㈱、㈱ベルテック)

シート防水に関する情報発信 https://www.krkroof.net/

KRKのホームページを通じて、材料の品質向上、環境負荷低減など最新技術情報の発信を行っています。

- 技術資料
防水シートに関する規格や防水層の性能評価方法、諸性能、施工や補助材料、メンテナンス等を掲載しています。
- 仕様と施工
各種仕様、防火性能、各工法別施工手順や納まり図を掲載しています。
- Q&A
耐風圧性能などよくご質問いただく事柄をまとめました。
- 出版物
当工業会の発行するマニュアルのご紹介やパンフレットPDFのダウンロードができます。
※当広報誌2006 vol.1～2017 vol.12もダウンロード可能です。



〔賛助会員広告〕

Kaneka
カネライトフォーム FX
熱伝導率 **0.022** W/(m・K)
※住宅金融支援機構記載の断熱性能における[記号別の断熱材の種類と規格]による記号
[製造] 株式会社 **カネカ** Foam & Residential Techs Solutions Vehicle
本社・東日本営業部 〒100-0011 東京都千代田区千代田1-3-3 TEL.03 (3596) 7011

カガクでネガイをカナエル会社
建材トップランナー制度対象製品
(区分名：押出法ポリスチレンフォーム断熱材)
平成34年度目標基準値熱伝導率
0.03232 W/(m・K)

ディスク固定用スクリュー
大きさ・薄さ
長さ
下地対応力
JPE 日本パワーファスニング株式会社
東京証券取引所
第2部 コート5950
TEL.03-3639-2600

〔賛助会員広告〕

株式会社シュナイダー・ジャパン
防水機械固定工法に最適!
コンストラクションツール
エアロスミスCT90

〔賛助会員広告〕

ソトウ株式会社
スイス、EU 諸国 各メーカー 防水シート用融着機
輸入販売・修理サービス
・熱風手動融着機 (BAK 社 リオンS / リオン デジタル型)
・熱風自動融着機 (BAK 社 ラロン型、プラノン型)
・施工工具、付属部品
TEL 045-322-0720

シート防水の特長

シート防水材の特長を上手く生かすことで、信頼性の高い防水層を実現しています。

均質な防水層を形成します

品質管理された工場において、シート状に製造されているため、物性・寸法(厚さ・幅・長さ)などのばらつきが少なく、均質な防水層を形成します。

耐久性に優れています

使用している材料は、耐候性・耐水性・耐熱性等に優れるため、露出でも優れた耐久性を発揮します。

下地の挙動に追従します

シートをスレート板に張り付けた実験では、50mm幅でも破断しません。

工期短縮OK

防水シート
屋上等

工程が少なく、工期短縮が図れます

シート防水はシングルプライ(一層防水)のため、工程が少なく、工期短縮が図れるほか、工程管理が容易になります。

かぶせ工法が可能

改修工事の際、既存防水層を撤去せず、新規シートをかぶせて施工できます。

土木工事にも採用されています

処分場、貯水池、用水路などの遮水・防水工事に採用されています。

シート防水材の紹介

加硫ゴム系シート

- 低温、高温の広い温度範囲にわたって安定している。
- 多様な下地材料に適用し、改修工事にも適している。
- 引張強さ、伸び特性が大きく、下地亀裂追従性、繰返し伸縮などに優れている。

塩化ビニル樹脂(PVC)系シート

- ルーフィングシート相互は熱融着あるいは溶剤溶着で接合でき、一体化する。
- 耐圧縮性、耐摩耗性に優れているため、軽歩行ができる。
- 防水層は自己消火性を有しており、延焼しにくい。

エチレン酢酸ビニル樹脂(EVA)系シート

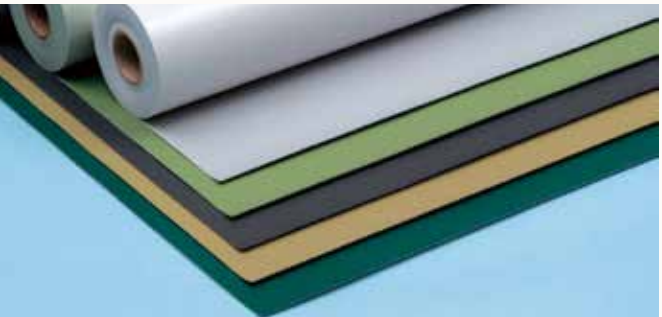
- 可塑性を含有しない、もともと柔軟な素材である。
- 引張強さ、引裂き強さ、伸び特性が非常に大きく、下地亀裂追従性や繰返し伸縮などに優れている。
- コンクリートやモルタル等と強固に密着する。
- 防水層端末部に押え金物を使用しない。

非加硫ゴム系シート

- シート防水層自体の収縮する力が弱く、浮きや接合部のズレなどが発生しにくい。
- ルーフィングシート相互の接着接合性が良好で一体化する。
- ルーフィングシート自体が柔軟で、複雑な形状の下地になじみ易い。

熱可塑性エラストマー(TPE)系シート

- ルーフィングシート相互は熱融着で接合でき、一体化する。
- ハロゲン、可塑剤類を含まないので、物性変化が少なく環境汚染や人体への影響が少ない。



ST

Safety and Top quality space

安全で高級な空間へ

タキロンシーアイグループ

タキロンマテックス株式会社

03-5781-8150

屋内プール向けに専用床材を開発

GOOD DESIGN JASF

限界を超越した断熱性能!!

高性能・新次世代型断熱材

スラフォーム

押出法ポリスチレンフォーム断熱材 [JIS A 9521・XPS3aD]

熱伝導率 0.022 W/m・K (23℃)

株式会社 JSP 建築土木資材事業部 TEL.03-6212-6362

建材トップランナー制度対象製品

押出法ポリスチレンフォーム断熱材

平成34年度目標値0.03232W/(m・K)

シート防水工法の紹介

接着工法

- 加硫、非加硫ゴム系
- 塩化ビニル樹脂系

ルーフィングシートを接着剤を使用して下地に張り付ける工法で、シート防水の初期の頃から採用されているベーシックな仕様です。下地に全面的に接着されていますので、耐風性に優れ、作業性もよく大面積を比較的短期間に施工できます。下地の乾燥など下地条件に注意が必要です。



機械的固定工法

- 加硫ゴム系
- 塩化ビニル樹脂系
- 熱可塑性エラストマー系

ルーフィングシートを固定金具を用いて下地に固定する工法です。接着剤を使用しないので接着に必要な要素が除外されるため、改修工事や下地条件の厳しい場所などに採用されています。建築基準法に基づき定められた風圧力計算により耐風圧性に配慮した固定金具の設置が必要です。



密着工法

- エチレン酢酸ビニル樹脂系

ルーフィングシートをポリマーセメントペースト等を用いて下地に密着させる工法です。ルーフィングシートと下地との間に密にポリマーセメントペーストが介在することで、水の通り道を作りません。下地の乾燥が不要で保護層を薄く仕上げたい室内防水や地下防水、屋上防水に最適です。



公共建築(改修)工事標準仕様書(平成28年版)

工法	接 着 工 法				機 械 的 固 定 工 法					
種別	S-F1		S-F2		S-M1		S-M2		S-M3	
工程	材料・工法	使用量(kg/m ²)	材料・工法	使用量(kg/m ²)	材料・工法	使用量(kg/m ²)	材料・工法	使用量(kg/m ²)	材料・工法	使用量(kg/m ²)
1	プライマー塗り	0.2 (0.3) ^{(注)1}	— (プライマー塗り)	— (0.3) ^{(注)1}	—	—	—	—	—	—
2	接着剤塗布	0.4 ^{(注)2}	接着剤塗布	0.4	—	—	—	—	—	—
3	加硫ゴム系ルーフィングシート(1.2mm)張付け	—	塩化ビニル樹脂系ルーフィングシート(2.0mm)張付け	—	加硫ゴム系ルーフィングシート(1.5mm)の固定金具による固定	—	塩化ビニル樹脂系ルーフィングシート(1.5mm)の固定金具による固定	—	熱可塑性エラストマー系ルーフィングシート(1.2mm)の固定金具による固定	—
4	仕上塗料塗り ^{(注)4}	—	—	—	仕上塗料塗り ^{(注)4}	—	—	—	—	—

(注) 1. ALC/パネルの場合は、工程1を()内とする。
2. S-F1の場合で粘着層付又は接着剤付加硫ゴム系ルーフィングシートを使用する場合は、工程2の接着剤使用量を0.2kg/m²(下地面のみ)とする。
3. S-M2の場合で立上りを接着工法とする場合は、立上り面のシート厚さを特記がなければ1.5mmとする。
4. 仕上塗料の種類及び使用量は、特記による。

工法	接 着 工 法				機 械 的 固 定 工 法			
種別	SI-F1		SI-F2		SI-M1		SI-M2	
工程	材料・工法	使用量(kg/m ²)	材料・工法	使用量(kg/m ²)	材料・工法	使用量(kg/m ²)	材料・工法	使用量(kg/m ²)
1	プライマー塗り	0.2 (0.3) ^{(注)1}	— (プライマー塗り)	— (0.3) ^{(注)1}	—	—	—	—
2	接着剤／断熱材	—	接着剤／断熱材	—	防湿用フィルム／断熱材	—	防湿用フィルム／断熱材	—
3	接着剤塗布	0.4 ^{(注)3}	接着剤塗布	0.4	—	—	絶縁用シート敷設 ^{(注)2}	—
4	加硫ゴム系ルーフィングシート(1.2mm)張付け	—	塩化ビニル樹脂系ルーフィングシート(2.0mm)張付け	—	加硫ゴム系ルーフィングシート(1.5mm)の固定金具による固定	—	塩化ビニル樹脂系ルーフィングシート(1.5mm)の固定金具による固定	—
5	仕上塗料塗り ^{(注)6}	—	—	—	仕上塗料塗り ^{(注)6}	—	—	—

(注) 1. ALC/パネルの場合は、工程1を()内とする。
2. SI-M2の場合で断熱材が硬質ウレタンフォーム断熱材又は保湿板を用いる場合は、工程3を行わない。
3. SI-F1の場合で粘着層付又は接着剤付加硫ゴム系ルーフィングシートを使用する場合は、工程3の接着剤使用量を0.2kg/m²(下地面のみ)とする。
4. SI-M2の場合で立上りを接着工法とする場合は、立上り面のシート厚さを特記がなければ1.5mmとする。
5. 工程2の断熱材張付けは、ルーフィング製造所の仕様による。
6. 仕上塗料の種類及び使用量は、特記による。

シート防水施工事例

日本工業大学クラブ棟（S4棟）
熱可塑性エラストマー系シート防水機械的固定断熱工法



大正住宅
加硫ゴム系シート防水機械的固定工法



Z 社工場
加硫ゴム系シート防水接着工法



福祉サービス事業所 明日葉
塩化ビニル樹脂系シート防水機械的固定断熱工法





●TOPICS● GHS制定の背景

近年、多種多様な化学品が全世界で広く利用されており、その中には人や環境に対する危険有害性を有するものも多く含まれています。

一方で、こうした危険有害性の情報を伝達するための規則等は国や機関によって様々で、同じ化学品であっても異なる危険有害性情報が表示されたり、伝達されることもあります。しかし、化学品が世界中に流通している今日、国や機関によって表示内容等が異なる状況では、化学品の安全な使用・輸送・廃棄は困難です。このような状況から、国際的に推奨された分類・表示方法の必要性が認識されるようになり、2003年7月には、国連経済社会理事会において「化学品の分類および表示に関する世界調和システム（The Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals）」（GHS）の実施促進のための決議が採択されました。

GHSとは

GHSとは『化学品の分類および表示に関する世界調和システム』（The Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals）の略で、世界的に統一されたルールに従って、化学物質及び混合物を危険有害性の種類と程度により分類し、その情報がひと目で分かるよう、ラベルで表示することや、安全データシートを提供するシステムです。

化学品の有害危険性に関する情報を、それを取り扱う全ての人々に正確に伝えることによって、人の安全・健康及び環境の保護を行うことを目的としています。

危険有害性情報の伝達手段（表1）

●ラベルの要素

表示に用いるラベル要素は、下記のとおりです。

①製品特定名 ②注意喚起語 ③絵表示 ④危険有害性情報 ⑤注意書き ⑥供給者の特定

●SDSによる情報伝達

SDS(Safety Data Sheet: 安全データシート)とは、化学品の安全な取り扱いを確保するために、化学品の危険

表1

	目的	内容
①分類	危険な有害性を判定するための国際的な基準（分類基準）	1) 物理化学的危険性（16項目） （例）引火性液体、可燃性液体など 2) 健康に対する有害性（10項目） （例）急性毒性、発がん性など 3) 環境に対する有害性（2項目） （例）水生環境有害性、オゾン層への有害性
②情報伝達	情報伝達手段の調和と整備	1) ラベル （危険有害性情報や適切な取り扱い方法を伝達） 2) SDS【安全データシート】 （事業者間の取引時に提供）

有害性等に関する情報を記載した文書のことです。事業者間で化学品を取り扱う時までに提供し、化学品の危険有害性や適切な取り扱い方法に関する情報等を、供給者側から受け取り側の事業者へ伝達します。

SDSは、これらの化学品を使用して作業する労働者等にとって、取り扱い時等において、非常に有益な情報伝達ツールとなります。

GHSにおいては、以下の16項目の情報を、この順番通りに記載することになっています。

①物質または混合物および会社情報 ②危険有害性の要約 ③組成および成分情報 ④応急措置 ⑤火災時の措置 ⑥漏出時の措置 ⑦取扱いおよび保管上の注意 ⑧ばく露防止および保護措置 ⑨物理的および化学的性質 ⑩安定性および反応性 ⑪有害性情報 ⑫環境影響情報 ⑬廃棄上の注意⑭輸送上の注意 ⑮適用法令 ⑯その他の情報

【賛助会員広告】

卓越するデカラ、
手にする信頼。

世界唯一。墨出しから留め付けまでの
一貫したプロ向けアイテム

お問い合わせは
●カスタマーサービス **0120-66-1159**
●ヒルティ・オンライン **www.hilti.co.jp**

フィッシャー デュオパワー fischer DUOPOWER
innovative solutions パワーとインテリジェンスのデュオ

GHSの絵表示

GHSでは、図1の9種類の絵表示（Pictograms）が決められており危険有害性区分に応じて表示することになっています。

GHSの危険有害性クラス

「物理化学的危険性」、「健康に対する有害性」、「環境に対する有害性」に関して以下の「危険有害性クラス」が設定されており、それぞれについて、どの程度の危険有害性

【炎】  可燃性 / 引火性ガス (化学的に不安定なガスを含む) エアゾール 引火性液体 可燃性固体 自己反応性化学品 自然発火性液体・固体 自己発熱性化学品 水反応可燃性化学品 有機過酸化物	【円上の炎】  支燃性 / 酸化性ガス 酸化性液体・固体	【爆弾の爆発】  爆発性 自己反応性化学品 有機過酸化物
【腐食性】  金属腐食性物質 皮膚腐食性 眼に対する重篤な損傷性	【ガスボンベ】  高压ガス	【どくろ】  急性毒性 (区分1～区分3)
【感嘆符】  急性毒性 (区分4) 皮膚刺激性 (区分2) 眼刺激性 (区分2A) 皮膚感作性 特定標的臓器毒性 (区分3) オゾン層への有害性	【環境】  水生環境有害性 (急性区分1、 長期間区分2) 長期間区分2)	【健康有害性】  呼吸器感作成 生殖細胞変異原性 発がん性 生殖毒性 (区分1、区分2) 特定標的臓器毒性 (区分1、区分2) 吸引性呼吸器有害性

図1

表2

危険有害性	分類項目	絵表示
物理化学的危険性 (16項目)	1. 爆発物 2. 可燃性または引火性ガス 3. エアゾール 4. 支燃性 / 酸化性ガス 5. 高压ガス 6. 引火性ガス 7. 可燃性固体 8. 自己反応性化学品 9. 自己発火性液体 10. 自己発火性固体 11. 自己発熱性化学品 12. 水反応可燃性化学品 13. 酸化性液体 14. 酸化性固体 15. 有機過酸化物 16. 金属腐食性物質	    
健康に対する有害性 (11項目)	1. 急性毒性 2. 皮膚腐食性 / 皮膚刺激性 3. 眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 4. 呼吸器感作性 5. 皮膚感作性 6. 生殖細胞変異原性 7. 発がん性 8. 生殖毒性 9. 特定標的臓器毒性(単回ばく露) 10. 特定標的臓器毒性(反復ばく露) 11. 吸引性呼吸器有毒性	   
環境に対する有害性 (2項目)	1. 水生環境有毒性(急性・長期) 2. オゾン層への有毒性	 

〔賛助会員広告〕

屋上設備基礎 革命!コンクリートから鋼製へ


工期短縮・軽量化工法

ベルベース
株式会社ベルテック

新製品 ナイロンプラグの性能を最大に引き出す

ハイブリッドビス
実用新案取得



フルシダー社日本総代理店
峰岸株式会社

があるか、あるいはないかを判断するために調和された分類基準が定められています。(表2)

物理化学的危険性の分類について

●引火性液体の場合

注意喚起語（Signal words）とは、注意者に対して、潜在的な危険有害性を警告するために使用されると同時に、危険有害性の程度を知らせる語句のことです。「危険（danger）」と「警告（warning）」の2種類があり、重大な危険有害性が「危険」を用い、それよりは重大性が低い危険有害性がある場合には「警告」を用います。

大		危険性		小
				
分類	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4
絵表示				絵表示なし
注意喚起語	危険	危険	警告	警告
危険有害性情報	極めて引火性の高い液体及び蒸気	引火性の高い液体及び蒸気	引火性液体及び蒸気	可燃性液体

健康有害性の分類について

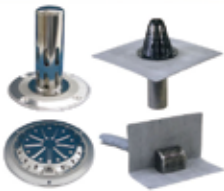
●急性毒性の場合

急性毒性は、物質の経口または経皮からの単回投与、あるいは24時間以内に与えられる複数回投与ないしは4時間の吸入暴露によっておこる有害な影響を言います。

大		危険性		小	
分類		区分 1	区分 2	区分 3	区分 4
絵表示					
注意喚起語		危険	危険	危険	警告
危険有害性情報		飲み込むと生命に危険	飲み込むと生命に危険	飲み込むと有害	飲み込むと有害
【参考】 毒劇法による分類		毒物	毒物	劇物	――

〔賛助会員広告〕

株式会社 山装
YAMASO


長年のノウハウを生かして、独自の高い技術力で防水資材製品を製造・販売しております。

●お問い合わせ先●
TEL:045-781-7821/FAX:045-781-7824

環境有害性の分類について

●水性環境有害性（急性）の場合

	大	危険性	小
分類	区分1	区分2	区分3
絵表示		絵表示なし	絵表示なし
注意喚起語	警告	注意喚起語なし	注意喚起語なし
危険有害性情報	水生生物に非常に強い毒性	水生生物に毒性	水生生物に毒性

例外的にSDSやラベルを提供しなくてもよい製品

- 以下に該当する製品には SDS やラベルを提供する必要はありません。
- ①含有率が少ないもの 指定化学物質の含有率が 1 質量%未満(特定第一種指定化学物質の場合は 0.1 質量%未満)の製品。
 - ②固形物 事業者による取扱いの過程において固体以外の状態とならず、かつ粉状又は粒状にならない製品。
例：管、板、組立部品等
 - ③密封された状態で使用される製品。
例：コンデンサー、乾電池等
 - ④一般消費者用の製品 専ら家庭生活に使用されるものとして、容器等に包装された状態で流通し、かつ、小売店等で主として一般消費者を対象に販売されている製品。
例：家庭用殺虫剤・防虫剤、家庭用洗剤等
 - ⑤再生資源 資源の有効な利用の促進に関する法律第2条第4項に規定する再生資源。

合成高分子ルーフィング工業会での対象物

KRK の各メーカーが扱っている商品にはこのような内容的が必要です。

●ラベル表示

プライマー 接着剤 仕上塗料 防水層 不定形シール材 定形シール材 下地調整材

●SDS

プライマー 接着剤 仕上塗料 不定形シール材 下地調整材 防水層

●表紙写真：神奈川県立歴史博物館

設計・監理：建築設備設計 纏企画
施工：アオヤマ
所在地：神奈川県横浜市中区南仲通 5-60
竣工：平成29年3月（工事完了年月）
新築時の竣工：明治37年
延床面積：7,972㎡
構造：【旧館】石造 【新館】SRC造
防水仕様：塩化ビニル樹脂系シート防水
機械的固定断熱工法

